

政策番号	16	政策分野	高齢者福祉
------	----	------	-------

基本方針	いわゆる「団塊の世代」が高齢期を迎え、今後、介護給付費をはじめとした財政需要の増大が想定されるなか、高齢者自身が就労や社会参加を通じた生きがいをづくり、健康づくりを進めることにより、活力あるまちづくりを推進する。また、介護を必要とする高齢者が住み慣れた地域で生活できるよう、介護・医療施設等の整備に取り組むとともに、地域住民参加型の見守りネットワークを構築し、地域全体で高齢者を支えるしくみづくりを推進する。
------	--

担当局	保健福祉局	共管局	
-----	-------	-----	--

政策に関係する 主な分野別計画等	京都市民長寿すこやかプラン
---------------------	---------------

政策の評価

1 客観指標評価

政策の客観指標評価	23年度 評価値	32年度 目標値	25 年度	26 年度	27年度評価				
					前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1 認知症あんしんサポーター登録者数(人)	28,920	-	a	a	50,501	60,870	50,000	121.7%	a
2 施設・居住系介護保険サービス定員数(人分)	11,981	-	a	a	14,325	15,151	782人分増	105.6%	a
3 地域包括支援センター相談件数(件)	239,203	-	b	b	254,019	250,044	266,720	93.7%	b
			a	a					a

施策の客観指標評価		評価		
施策番号	施策名	25年度	26年度	27年度
1601	高齢者の尊厳を保つ社会の構築(2指標)	b	b	b
1602	活力ある長寿社会の実現(4指標)	a	b	a
1603	高齢者を支えるネットワークの推進(2指標)	a	a	b
1604	介護サービスの充実による豊かな生活の実現(2指標)	a	a	a
1605	魅力ある介護現場の実現(1指標)	c	e	b
	(5施策平均)	a	b	a

政策の客観指標総合評価 (政策の客観指標評価:施策の客観指標評価=1:0.5)	25年度	26年度	27年度
	-	a	a

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		25年度	26年度	27年度
1	高齢者が敬われ、心身ともに健康で充実した暮らしを送れている。	c	c	c
2	高齢者の知恵や経験、技能が社会に生かされている。	c	c	c
3	高齢者が地域で見守られ支えられて、安心してくらするまちになっている。	c	c	c
4	介護サービスや住環境整備などが充実し、高齢者が住み慣れた地域でそのひとらしいくらしを送れている。	c	c	c
5	高齢社会が進展するなか、介護職が重要な仕事となっている。	a	a	a
	市民生活実感調査総合評価	b	b	b

2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

25年度		26年度		27年度	
順位	%	順位	%	順位	%
15	81.6%	14	83.9%	16	80.8%

3 総合評価

B	政策の目的がかなり達成されている		
<p>【客観指標】●認知症あんしんサポーター登録者数については、地域や職場等での認知症に関する正しい理解や対応方法の普及・啓発のための養成講座の開催等に取り組んだ結果、昨年度に引き続き、前年度から大幅に増加し、3年連続a評価と高い評価で安定している。</p> <p>●介護保険サービス定員数については、国の補助制度等を活用し、特別養護老人ホームの整備等を進めた結果、堅調に増加し、3年連続a評価と高い評価で安定している。</p> <p>●地域包括支援センター相談件数については、センターの愛称やシンボルマークの公募をはじめとした周知に取り組んだところ、目標値には届かなかったものの、3年連続b評価と安定している。</p>		26年度	B
<p>【市民の実感】●市民の実感については、全体として昨年度と同様の評価であった。</p> <p>●介護職の重要性については、高齢化の進展に伴い強く認識され、3年連続a評価と高い評価で安定している。</p> <p>●その他の全設問において「どちらとも言えない」が多数回答であり、3年連続c評価が続いている。高齢者の技能等の活用や、地域で支える仕組みづくりが進んでいるとの実感を十分に得られていないことによると考えられる。</p>		25年度	B
<p>【総括】●市民の実感については、介護職の重要性以外は「どちらとも言えない」との回答が多数であり、実感の向上に向けて引き続き取り組む必要があるが、高齢者を支える人材育成や基盤整備は一定進捗している。</p> <p>●こうしたことを総合的に勘案し、この政策の目的は、かなり達成されていると評価する。</p>			

今後の方向性の検討

<この政策を構成する施策とその総合評価(客観指標評価+市民生活実感評価)>

施策番号	施策名	総合評価		
		25	26	27
1601	高齢者の尊厳を保つ社会の構築	B	B	B
1602	活力ある長寿社会の実現	B	B	B
1603	高齢者を支えるネットワークの推進	B	B	B
1604	介護サービスの充実による豊かな生活の実現	B	B	B
1605	魅力ある介護現場の実現	B	C	B

<今後の方向性>

- 高齢者一人ひとりが、自らの意思に基づき、住み慣れた地域で、いきいきと健やかに暮らせる「健康長寿のまち京都」をみんなでつくることを目指し、世代間相互の理解の促進と認知症をはじめとする要援護高齢者への支援、生きがいつくりと介護予防、高齢者の地域生活を支える体制づくり、安心して暮らせる介護・福祉サービス等の充実を重点として取組を進める。
- 活力ある長寿社会の実現に向け、高齢者の技能等の活用や、地域で支える仕組みづくりを推進する。

政策名	16	高齢者福祉
指標名	認知症あんしんサポーター登録者数（人）	
担当部室	長寿社会部	連絡先 251-1106
1 指標の説明 認知症に対する正しい知識と具体的な対応方法等を学んだサポーターの登録者数		
2 指標の意味 高齢者の尊厳が保たれる社会の構築に向けた進捗状況を示す指標		3 算出方法・出典等 算出方法：当該年度末時点の登録者数 出典：事業担当課調べ
4 数値		
10年後の（平成32年度） 目標値	平成23年度評価値 28,920	平成32年度目標値 - 根拠
	前回数値 25年度 50,501	最新数値 26年度 60,870
	推移 10,369人増	単年度目標値 数値 50,000 根拠 平成26年度末までに5万人の目標達成のために当該年度達成すべき数値(累計)
	達成度 121.7%	
	全国順位	中長期目標 数値 50,000 目標年次 26年度 達成度 121.7% 根拠 第5期京都市民長寿すこやかプラン
	備考	
5 評価基準 単年度目標に対する達成率が a：100%以上 b：90%以上100%未満 c：80%以上90%未満 d：70%以上80%未満 e：70%未満		6 基準説明 認知症に関する知識は、市民に周知されることが望ましいことから、目標値の100%以上をa、以下10%刻みで基準を設定した。
		7 評価結果
		25 26 27
		a a a

指標名	施設・居住系介護保険サービス定員数（人分）	
担当部室	長寿社会部	連絡先 213-5871
1 指標の説明 介護保険施設及び介護専用居住系サービスの定員数		
2 指標の意味 介護サービスの充実度を示す指標		3 算出方法・出典等 算出方法：当該年度末時点の介護保険施設等の実定員数から前年度末時点の実定員数を差し引いて算出 出典：事業担当課調べ
4 数値		
10年後の（平成32年度） 目標値	平成23年度評価値 11,981	平成32年度目標値 - 根拠
	前回数値 25年度 14,325	最新数値 26年度 15,151
	推移 826人分増	単年度目標値 数値 782人分増 根拠 京都市民長寿すこやかプラン(増加分)
	達成度 105.6%	
	全国順位	中長期目標 数値 目標年次 達成度 根拠
	備考	
5 評価基準 最新数値の前回数値からの増加分が、目標値に対して、 a：80%以上 b：60%以上～80%未満 c：40%以上～60%未満 d：20%以上～40%未満 e：20%未満		6 基準説明 当該指標については、民間事業者による整備促進を図るものである困難性に鑑み、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。
		7 評価結果
		25 26 27
		a a a

政策名	16	高齢者福祉
-----	----	-------

指標名	地域包括支援センター相談件数（件）
-----	-------------------

担当部室	長寿社会部	連絡先	251-1106
------	-------	-----	----------

1 指標の説明

地域包括支援センターへの年間相談延べ件数

2 指標の意味

地域全体で高齢者を支えるネットワークの構築状況を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：全数調査
出典：事業担当課調べ

4 数値

10年後の(平成32年度)目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	239,203	-	

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	25年度	26年度		数値	根拠	達成度
数値	254,019	250,044	3,975件減	266,720	前年度実績の5%増の数値	93.7%

	全国順位	中長期目標			根拠
		数値	目標年次	達成度	
数値					

備考	
----	--

5 評価基準

単年度目標に対する達成率が
a：100%以上
b：90%以上100%未満
c：80%以上90%未満
d：70%以上80%未満
e：70%未満

6 基準説明

積極的な対象者の発見を重視し、目標値の100%以上をa、以下10%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

25	26	27
b	b	b